

都市公園における高齢者の利用について*

About the activity of the aged in city park*

正岡和繁**・北村真一***

By Kazushige MASAOKA **, Shinichi KITAMURA ***

1. はじめに¹⁾

高齢化社会といわれる中で、①高齢者の自由時間の使い道としてどのような施設、組織を整備していくか、また②高齢者の為の都市公園整備と管理の在り方はいかに在るべきかを検討する上で役立てる為にも実際に高齢者の自由時間の使い方、施設などの利用実態を知る事は重要である。

そこで、高齢者はなぜ公園に来るようになったのか、なぜ1日の生活の大部分を占める時間を公園で過ごすのかといった観点から都市公園における高齢者の利用特性について明らかにする。具体的には、

- (1) 公園を利用する高齢者にはいかなるタイプがあるかを明らかにする。
- (2) それぞれのタイプにはどのような背景と利用特性を持っているかを明らかにする。

以上の2点を研究の目的とし、ケーススタディは山梨県甲府市の中心市街地内にある近隣公園である遊亀公園(2.7ha)において行った。

2. 既存研究

高齢者に関する研究は1980年頃から盛んになり、数多くの研究がなされている。その中で清水²⁾らは、公園利用者層について調査を行い、高齢者が第4期利用者層になるとし、利用者の少なくなっている街区公園に高齢者でも利用できるような要素を持ち合わせていけば、高齢者用のオープンスペース³⁾の提供に最適であるとしている。また、樋口⁴⁾らは、高齢者福祉センターなどの施設は郊外に配置される傾向があり、交通弱者である高齢者にとって利用しづらいものであり、利用層が狭くなってしまう。つまり、潜在的需要はかなりあるが、施設利用には高齢者の

場合距離が関係してくるという事を示している。しかし、具体的な施設づくりに当たって高齢者の行動分析と結びつけた詳細な研究が見あたらず、その点で本研究の特色がある。

3. 調査の概要

調査場所は高齢者がよく利用している都市公園として甲府市の遊亀公園(動物園を除いた園内)とした。調査対象者は60歳以上とした。調査方法はアンケート用紙に基づくヒアリング形式で、自由回答形式とした。調査内容は個人属性・就労状況・余暇時間と利用・公園の利用状況について20分~30分/人の時間をかけ、1995年11月11日12~16時・17日10~15時・25日12~15時・26日10~15時・31日11~16時、12月23日12~15時の6日間行い、46人中35人(拒否11人)から回答を得た。回答を拒否した人はお酒を飲んでいる人が5人、自分のしたい事をしている人が3人、軽い運動をしている人が2人、ベンチに座っている人が1人であった。遊亀公園の回答者は男性が多く(69%)、年代別に見るとさほど偏りはなく幅広い年代の人に利用されていたが、女性は後期高齢者(75歳以上)が主流で(73%)前期高齢者(60~75歳)は少数であった。また、夫婦で暮らしていると答えた人は全員男性で、女性の多くは子供と同居していた。公園までの所要時間はほとんど



写真1 公園で囲碁・将棋をする人達

*キーワード：高齢者、公園、余暇

**学生会員、山梨大学大学院工学研究科土木環境工学専攻

***正員、工学博士、山梨大学工学部土木環境工学科

(甲府市武田4-3-11 TEL0552-20-8597, FAX0552-20-8597)



写真2 公園で談笑する高齢者

の人（80%）が徒歩で10分以内で、居住地を見てもほぼ想定誘致圏内（半径500m）に重なっていた。ほとんどの人（86%）が曜日に関係ない生活をしており、諸活動にもあまり参加せず、公園以外には特に行く所がないような人は利用頻度も高く、平均滞在時間も長い。

4. 行動場面の構成

公園に来ている高齢者の集まる場所は、よく観察するとそれぞれの活動の内容によって集まる場所が違ふ。その人の主目的行動別に分類してみると、次のように分類できる。①囲碁・将棋などをする。②人との会話を楽しむ。③軽い運動をする。④自分の好きなことをする。⑤お酒を飲んでいる。

①の場所の人達は、道具は自分達でお金を出し合って買い揃えた物で、付属の市立図書館入り口の階段下に置いてある為、そこに近い場所に自然と集まり定着した。

②の人達は、話題の内容、ライフスタイルの違い

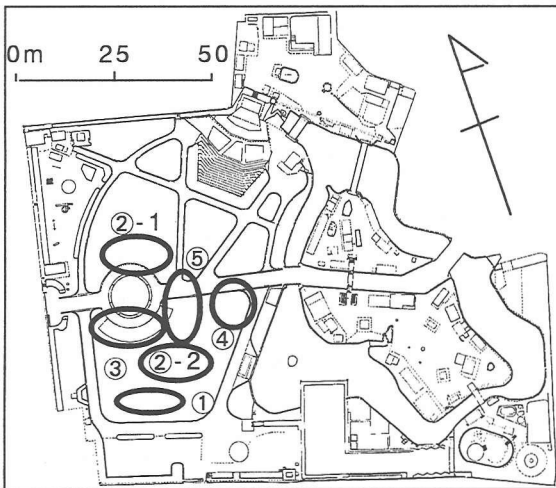


図1 遊亀公園平面図及び活動分布図

によって更に以下の2つに別れる。

(②-1)の場所の人達は、男性の一人暮らし、特に昔からずっと一人の人が中心となり、まだ仕事をしなくて探している人、金銭的に裕福でない人、子供との交流が疎遠になりほとんど面倒を見てくれなくなった人などが中心となって集まり会話を楽しんでいる。また、このような人達は、ほぼ1日中公園にいる。

(②-2)の場所の人達は子供と同居していて家族は大勢ではあるが、家にいるとする事がないといった人が多い。女性の後期高齢者で毎日来ている人を中心に集まる。ここに集まる人達は世間話しが中心であるが、やはり1日中公園にいる。

③の人達は滞在時間も比較的短く、利用頻度も低い。公園内で軽い運動をして少し休んだら帰る。自分から人と接することはあまりせず公園内での会話も挨拶程度で、自分のペースで公園を利用している。このような人は、前期高齢者の女性が主流で、まだ家事をしているのでのんびり時間を費やすわけにはいかない為である。

④の人達もまた滞在時間が比較的短く、何かのついでに寄る人などで、公園を利用している高齢者の割合で見ると少ない。また、普段は諸活動をしているので、空いた日に来て少しの間くつろいで帰る。

⑤の人達は、今回のアンケート調査では回答してくれなかったが、日中に開いている飲み屋が少なく、また店で飲むと高くつくので公園で飲んでいると推測される。公園を利用している人達からも敬遠されている。このような人も本当は孤独で、その孤独感をお酒で紛らわしていると推測される。

全体を見ると、お互い顔見知りではあるが、他のグループとの交流はほとんど無い。

5. 分析

この調査結果の分析にはKJ法⁴⁾を参考にしながら、回答者の発言内容を要約的にまとめ、それを居住環境、諸活動への取り組み、公園の利用形態・捉え方についてグループ化しそれぞれの関連性を考えながら公園の利用特性を分析した。この手法を使用する事により、公園利用者の背景にある物、利用特性、全体の体系的な物が明らかになる。

(1) 一人、又は夫婦で暮らす男性、後期高齢者の

基本的背景

- ・子供と同居
- ・家において暇やかと楽しい

趣味・生きがい

- ・よく本を読んでいる
- ・家にいるときは編み物などをしてる
- ・家事が趣味
- ・家事を楽しくていいうようにするとかも知れないけど寂しくなると思う
- ・家事が忙しいから諸活動に参加できない
- ・自分で自由に使える時間が少ない
- ・家族全員の家事は大変だがやりがいがある
- ・クラブに入ろうと思ったことはない
- ・動いてないと思ってる
- ・ゲームボーイをしてる
- ・集に3回ゴルフ練習場に行っているそこに
行けば友人がいる
- ・囲碁や将棋は嫌いあんな事を若い人がして
よく生活できてると思う
- ・別にどこに行きわけでもなく自転車ですら
ふらしている

趣味

- ・囲碁が唯一の趣味
- ・別に何も趣味はない
- ・今さら何かを始めようと思わない
- ・若いうちに見つけられなかった
- ・もう年だからと言って諦めている
- ・他の施設は利用したことはない
- ・盛なので激しい運動はできない
- ・何となくクラブに入るのをためらう
- ・もう少し若かったら何かしたかった
- ・特に趣味がないから何も参加してない
- ・身体が不自由なのであまり動き回れない
- ・体が弱って一人で普通に歩けない
- ・公園まで歩くことで運動になってる
- ・仕事はしたいが自分にあつたのがない
- ・諸活動は参加しても他人に迷惑かけただけ
- ・いつ具合が悪くなるか分からないから何にも参加してない
- ・交通事故にあつてから、ここに来る事位しかできない

公園の利用特性・活動内容

- ・公園に来る時間、曜日も決まってる
- ・どこかに行つたついでに寄る
- ・公園には孫の子守に来る
- ・散歩、気分転換、ストレス発散
- ・たまに散歩でもしないといけないから
- ・公園に行くことで健康管理、体力維持
- ・くつろげる
- ・すがすがしい、気分が安らぐ
- ・たまにびたばたをしながら来るだけ
- ・家にいるのかもしれないような時にはここにきて、少し休む
- ・公園に来て一人新聞を読んだりしている
- ・挨拶くらいはするが、自分から人と話したいから友人はいない
- ・自分で工夫をして時間を空けてくる
- ・外で囲碁などしたほうが気持ちがいい
- ・たまに外に出て日光に当たりながら囲碁をするのは気持ちいい
- ・休みの日は公園でのんびりしている方がいい

公園の楽しみ方

- ・近所付き合いが少ないからここのような場所があるといいと思う
- ・このような公園が近くにない寂しい
- ・このように年寄りが集まって話ができるような場所があるのはいいことだと思う
- ・このように大勢のお年寄りが集まれる所はいい
- ・このように場所があるという事はとても嬉しい
- ・いつ来てもいいにきやかでない雰囲気がある
- ・天気のいい日にくつろげる場所があると嬉しい
- ・木が沢山あり、人も沢山いる、ちょっと広い広さ
- ・他の公園は何となく暗いし寒い
- ・1週間の仕事のストレス発散の場所

公園の楽しみ方

- ・公園は誰の物でもないから好きな時に来れるし、好きなときに帰れるからいい
- ・このような公園がなかったらほとんど外に出ない寂しい生活をしていて
- ・仕事もしてない自分にも余えて嬉しい
- ・自分に好きな時間に好きなことができる
- ・大勢の人がいるし、気兼ねしないですむ
- ・自分と同年代の人と交流もできるのは嬉しい
- ・自然に人が集まれる場所があるのはすばらしい
- ・ベンチが多いのいい
- ・他の公園だったら時間を費やそうとは思わない
- ・活動日が決まってる、自分の都合のいい時に利用できる
- ・何となく明るい雰囲気がある
- ・夏は日陰、冬は良く日が当たる良い環境である
- ・家にいるよりも人と話ができるから楽しい
- ・ここだけが他人と接する、孤独を紛らわす場所
- ・大勢のお年寄りがいて友達もできる
- ・公園に来るようになってたぐくさんの友人ができた仲間がいて、いよいよ見えて本当はみんな孤独
- ・週末は家族連れもいてにぎやかで楽しい

図2 意見要約シート

女性は、「家にいると孤独」「する事が無くつまらない」また、「家族は多いが肩身が狭い」など、家庭にいても孤独感、疎外感を感じている。しかし、家庭から外に出ても特にこれといった趣味がないので、する事が無く戸惑ってしまう。これは、「若いうちに趣味や生きがいを見つける事ができなかった」「今更何か新しい事に挑戦しようとは思わない」など、歳だからと諦めて消極的になってしまっている。また、体が不自由である為に、余り遠くに出歩けない人、いつ具合が悪くなるか分からないから集団行動をすると周りに迷惑をかけるのではないかと考え、諸活動に参加しない人もいる。

(2) 囲碁が唯一の趣味という人は、外の方が気分がいい、お金のかからない娯楽施設と捉えている。

(3) 公園に人との会話を楽しみに来ている人達は、ベンチに腰掛け、話し相手が来るのを待っている。公園まで歩くことで運動を兼ねている人もいるが、孤独感を紛らわすために或いは目的があって来るのではなく、他にすることが無く仕方なく来ている。特に女性の後期高齢者が多い。これは家事をしなくなり急にすることが無くなり寂しくなってしまうからだ。その様になった時にはもう体が弱ってきており、今更何かをしようという気にならないので、諸活動にも参加せず、公園で日中を過ごすのが日課になってしまった。

毎日変化のない生活をしている人にとって公園内だけの付き合いであってもここに来れば大勢の人がいる。自分と似たような境遇の人がいる。などの要因によって公園に行くことを日課とするようになり、公園での滞在時間が長く、利用頻度がほぼ毎日といった状況になっている。

(4) 自分のしたい事をして、公園では余り人との交流を求めない人は公園の利用時間も比較的短く、利用頻度も低い。この様な人達は、何かしらの趣味や生きがいに積極的に取り組んでいる。

ほとんどの女性が家事は重労働で大変ではあるが、充実した生きがいと捉え、就労とは捉えていなかった。自分にもまだみんなの為にできる事があると考え、余暇時間がまとまって得られなくても自分なりに家事の順番などを工夫して時間を空けている。公園に来て園内を散歩したりして1時間程度の軽い運動、気分転換、息抜きをしてくつろいで帰

る。また、諸活動、趣味・生きがいに打ち込んでいる人は、普段動き回っているので休みの日はのんびりしていたいと感じ、公園には何かのついでに来て気分転換、休憩をして帰る。平日仕事のある人は、週末にストレス発散の場所として利用している。

曜日に関係のない生活をしている高齢者にとっては月に1回、または週に2回程度の活動では、社会活動への積極的な参加につながるとはいえないと推測される。

5. 結論

5-1. 公園に集まる高齢者には以下のような3つのタイプがある。

(1) 公園に来て人とのふれあいを求めるタイプ

(a) 積極的に人とのふれあいを求めるタイプ

(b) 消極的に人とのふれあいを求めるタイプ

(2) 自分のしたい事をしていて、公園ではあまり人との交流を求めているタイプ

5-2. それぞれのタイプの背景と利用特性は以下の通りである。

(1) 公園に来て人とのふれあいを求めるタイプ

背景：居住環境において孤独感を感じている。

利用特性：滞在時間が長く、利用頻度が高い。

(2) 自分のしたい事をしていて、公園ではあまり人との交流を求めているタイプ

背景：居住環境が比較的良好、家にいても賑やかで楽しいと感じている。

利用特性：滞在時間が短く、利用頻度が低い。

参考文献

1) 長寿社会対策の動向と展望 平成7年6月 総務長官官房老人対策室

2) 清水浩志郎・木村一裕・古山広功(1987)：高齢化社会における児童公園の活用方策、土木計画学研究・講演集

3) 樋口秀・中出文平(1991)：健常老人の日常行動と福祉施設整備に関する研究、第26回日本都市計画学会学術研究論文集

4) 川喜田二郎著(1967)：発想法、中公新書